

2021年3月期 第2四半期決算 補足説明資料

株式会社ゼネラル・オイスター
(3224)



General Oyster

2020年11月13日



1. 2021年3月期 第2四半期 トピックス



1

コロナ禍に伴う店舗休業等の影響により大幅な減収となったが、足元では回復基調。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う店舗休業や営業時間の短縮により、売上高は前年比47.6%減に落ち込んだが、1Qが前年比71.2%減、2Qが同27.0%減と回復基調にある。

2

利益面でも、コスト削減を推進したものの、大幅な減収により営業損失が継続。

グループ全体でコスト削減策を打つものの、営業損失289百万円、純損失226百万円を計上。

3

withコロナの経営スタイルに移行し、第2四半期（7月～9月）の純損失は前年より縮小

2Q（7月～9月）は、売上高が前年比27.0%減に減少。しかしながら、グループ全体でのコストコントロールを効かせた経営スタイルに移行したことに加え、雇用調整助成金等の活用により、純損失は29百万円の改善に成功した。

4

コロナ禍の中でも、10月度の卸売事業の売上高は前年を上回る

10月度の売上高は、店舗事業が前年比98.2%にまで回復するとともに、卸売事業は同101.6%と前年を上回り、牡蠣のトップシーズンに向けて大きな弾み。

5

世界初のウイルスフリーの牡蠣の陸上養殖の特許技術が、台湾、アメリカでも取得

沖縄久米島で取り組んでいる、世界初のウイルスフリーの牡蠣の陸上養殖の特許が日本以外で、台湾、アメリカでも承認。現在、他の地域にも申請中。今後の世界展開へ知財を確保。

連結損益計算書概要①

コロナ禍に伴う店舗休業や営業時間の短縮により、売上高は前年比47.6%減の減収となり、純損失も226百万円に拡大した。

(単位：百万円)	2020年3月期 第2四半期累計	2021年3月期 第2四半期累計	増減額	ポイント
売上高	1,726	904	△822 (-47.6%)	・店舗事業、卸売事業ともに コロナ禍の影響を受け、 前年比47.6%減の減収。
売上総利益	1,112	562	△550 (-49.4%)	・
販管費	1,242	852	△390 (-31.4%)	・キャッシュアウト削減の観 点から全国の拠点で機動的な 稼働体制へ転換し、前年比 390百万円の縮小を実現
営業利益	△129	△289	△160	・
経常利益	△129	△294	△165	・
親会社株主に帰属する 当期純利益	△113	△226	△113	・

連結損益計算書概要②

第2四半期（7月～9月）は、売上高が前年比249百万円の減収、営業利益が同18百万の減益となるも、純損失では同29百万円の改善を図る。

	第1四半期（4月～6月）			第2四半期（7月～9月）			第2四半期累計（4月～9月）		
	2020	2021		2020	2021		2020	2021	
	実績（百万円）	実績（百万円）	前年比（%）	実績（百万円）	実績（百万円）	前年比（%）	実績（百万円）	実績（百万円）	前年比（%）
売上高	803	231	-71.2	922	673	-27.0	1,726	904	-47.6
売上原価	280	94	-66.1	333	246	-25.9	613	341	-44.3
売上総利益	523	136	-73.9	589	426	-27.7	1,112	562	-49.4
販管費	594	350	-41.1	647	502	-22.4	1,242	852	-31.4
営業利益	△71	△ 213	-	△58	△ 76	-	△129	△ 289	-
経常利益	△70	△ 212	-	△58	△ 82	-	△129	△ 294	-
親会社株主に帰属する当期純利益	△63	△ 206	-	△49	△ 20	-	△113	△ 226	-

コロナ禍の長期化に備え、577百万円の銀行借り入れにより、手元流動性を確保。

(単位：百万円)

資産の部	2020年3月期 期末	2021年3月期 第2四半期	負債・純資産の部	2020年3月期 期末	2021年3月期 第2四半期
流動資産	347	745	流動負債	778	791
現金及び預金	124	472	支払手形・買掛金	101	126
売掛金	111	166	短期借入金 ^{*1}	349	383
棚卸資産	94	71	その他	328	282
その他	18	36	固定負債	514	1,021
固定資産	1,218	1,180	長期借入金 ^{*2}	67	587
有形固定資産	989	954	その他	447	434
無形固定資産	2	1	負債合計	1,293	1,812
投資その他の資産	227	225	純資産合計	272	113
資産合計	1,565	1,925	負債純資産合計	1,565	1,925

*1．1年内返済予定の長期借入金を含む

*2．社債を含む

セグメント別業績概況

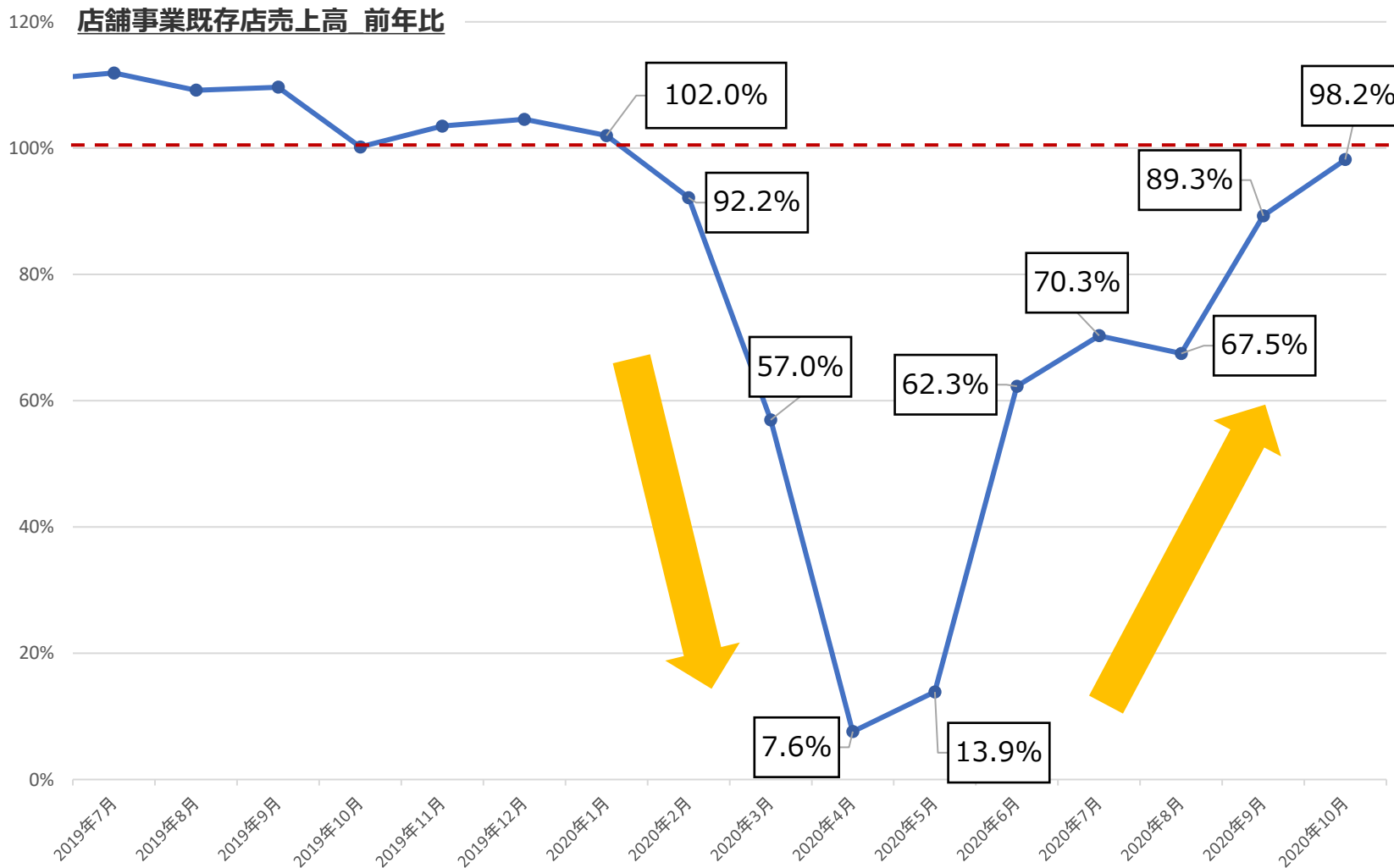
コロナ禍の影響を受けて、「店舗事業」が大きく落ち込む一方、「卸売事業」は黒字を確保。「浄化物流事業」及び「その他事業（陸上養殖、加工事業等）」は経費削減により損失幅が縮少。

(単位：百万円)

		2020年3月期 第2四半期	2021年3月期 第2四半期	前年比 (%)	ポイント
店舗事業 オイスターバーレスト ランでの飲食サービス	売上高	1,574	828	-47.3	コロナ禍に伴う店舗休業等により、減収減益。売上高は前年比47.3%減に落ち込み、損失を計上。
	営業利益	112	△102	—	
卸売事業 生牡蠣や牡蠣の加工 品の外販卸売り	売上高	137	70	-48.9	取引先もコロナ禍の影響を受けており、取引高が大きく減少したものの、黒字を確保。
	営業利益	55	17	-69.4	
浄化・物流事業 生牡蠣用の浄化セン ター、および物流事業	売上高	281	199	-29.3	コロナ禍による事業への影響を踏まえ、キャッシュアウト削減の観点から、工場やセンターなど拠点の一部稼働休業、時間短縮など機動的な稼働体制へ転換し、経費を抑えることができた。
	営業利益	△111	△50	—	
その他 陸上養殖、加工事業、 種苗、ECサイトなど	売上高	140	22	-83.7	
	営業利益	△103	△61	—	
調整額	売上高	△408	△216	—	
	営業利益	△82	△92	—	
連結財務諸表 計上額	売上高	1,726	904	-47.6	
	営業利益	△129	△289	—	

【店舗事業】 既存店売上高 前年比の推移

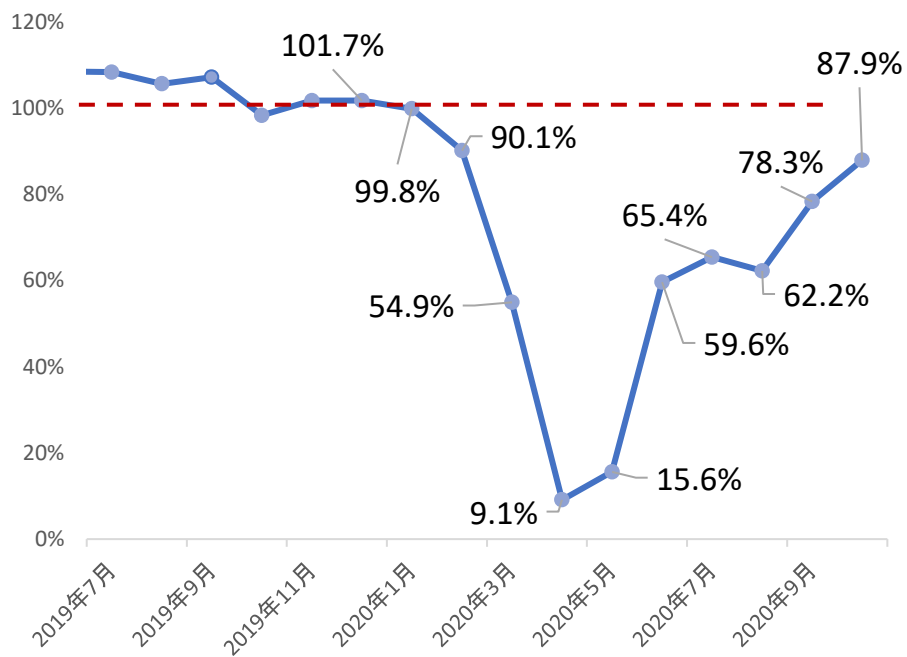
既存店売上高は店舗休業の影響により一旦大きく落ち込んだが、9月度は前年比89.3%、10月度は同98.2%と順調に回復。



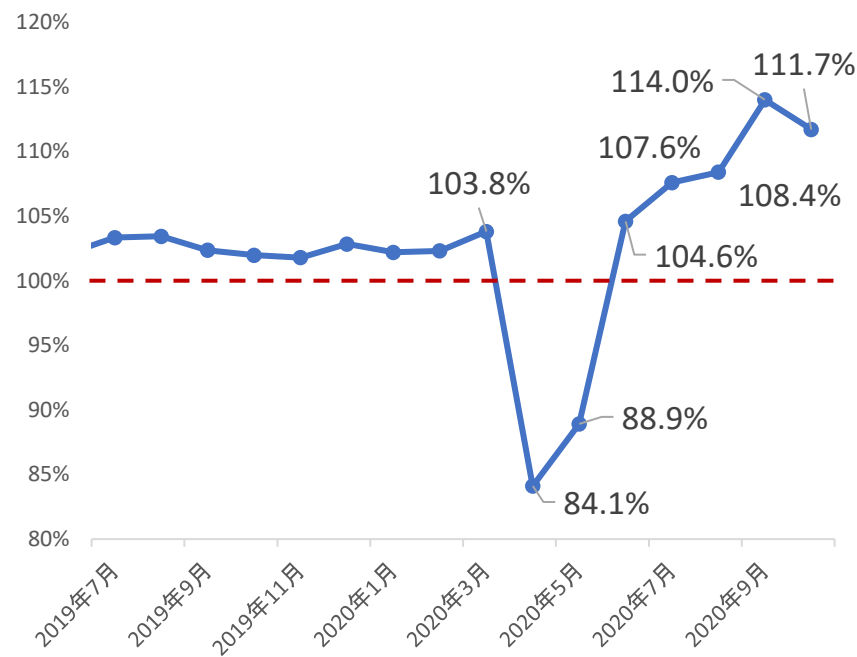
【店舗事業】 既存店客数・客単価 前年比推移

コロナ禍でランチの予約客数が増えるとともに、予約限定の食べ放題等の施策により、ランチ客単価が大きく伸びており、既存店売上高全体の底上げに貢献している。

店舗事業既存店客数 前年比

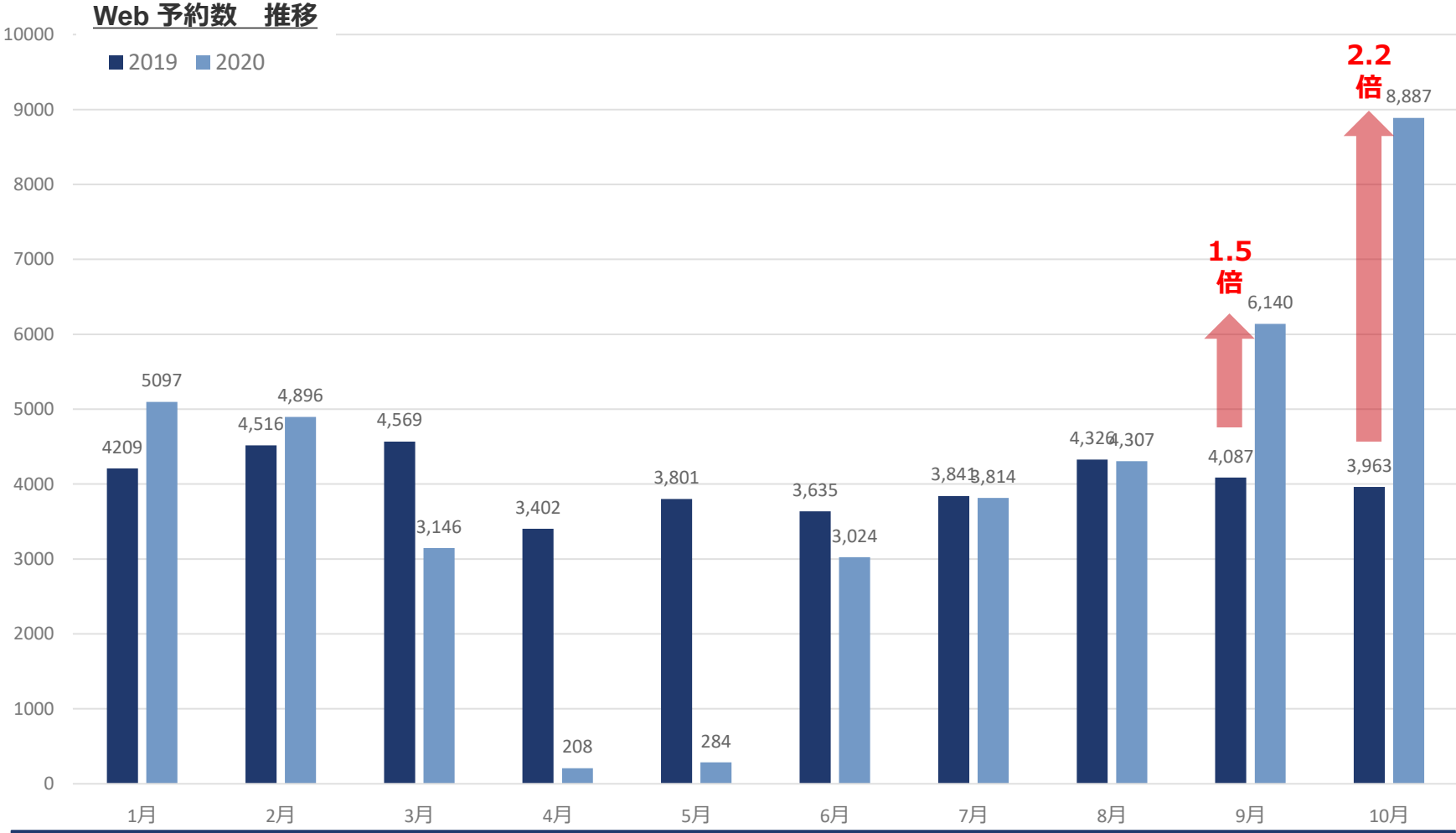


店舗事業既存店客単価 前年比



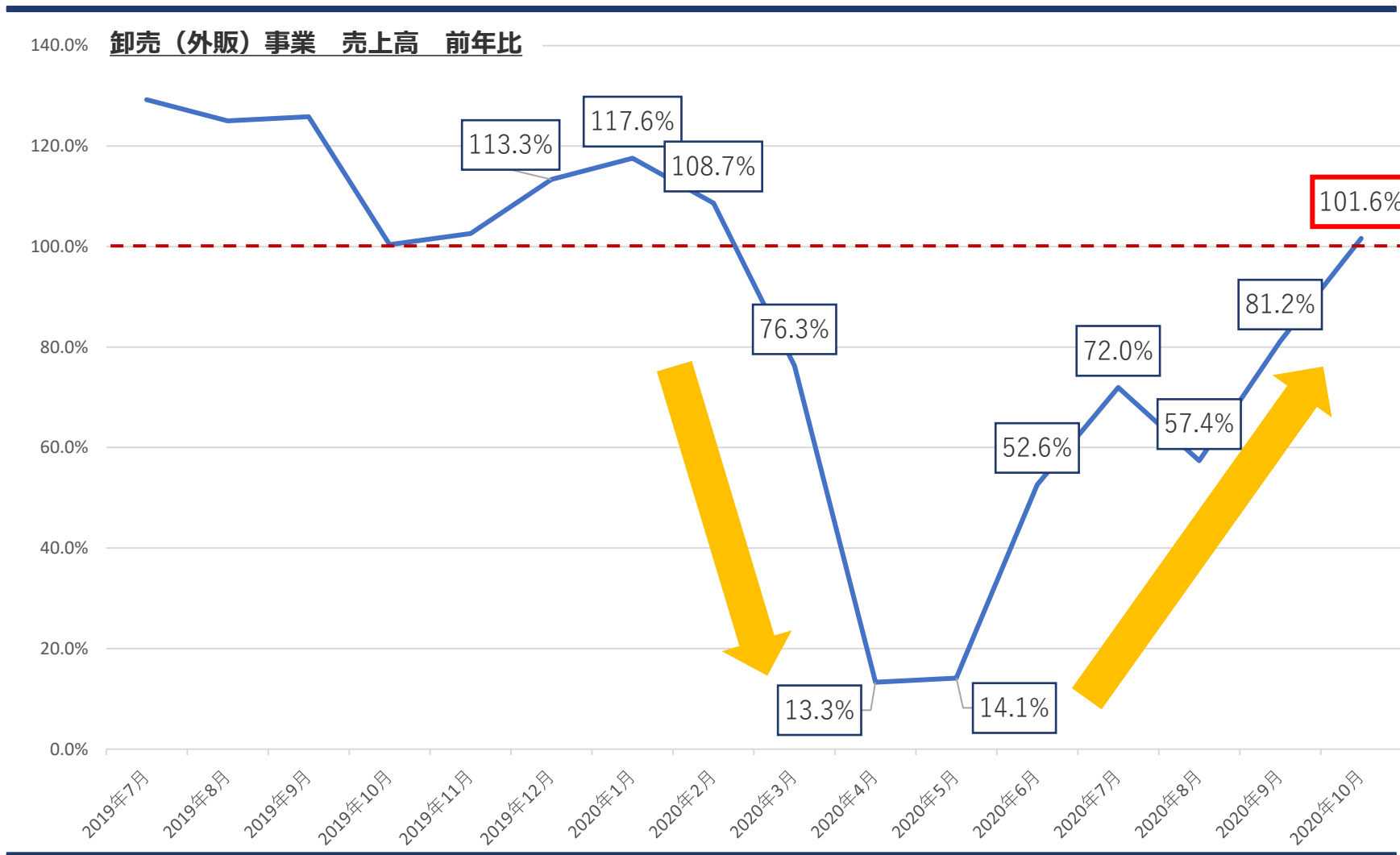
【店舗事業】 web 予約数 推移

web予約システムを8月に改良し、コロナ禍にも関わらず予約数が、9月は前年比150%
「go to eat キャンペーン」活用により、10月は更に増加し、同224%



【卸売事業】 売上 前年比の推移

卸売事業の売上高も、取引先の店舗休業等の影響により一旦大きく落ち込んだが、回復基調にあり、10月度は前年比101.6%とコロナ禍で初めて前年を上回った。



2. 主な取り組み



1

経営基盤の強化

コロナ禍での売上低迷のリスクに備え、銀行借入など必要資金を確保し手元流動性を確保。

2

工場やセンターの機動的な稼働体制への転換

コロナ禍による事業への影響を踏まえ、キャッシュアウト削減の観点から、工場やセンターなど各拠点について、一部稼働休業、時間短縮など機動的な稼働体制を継続

3

店舗及び、センターなどの取り組み

お客様と従業員の安心安全を確保するための施策を強化・徹底
【消毒液（微酸性電解水）を店内すべてのテーブルなどに設置、マスクの着用、手洗いの徹底】

4

コロナ禍の売上確保へ新規事業の立ち上げ

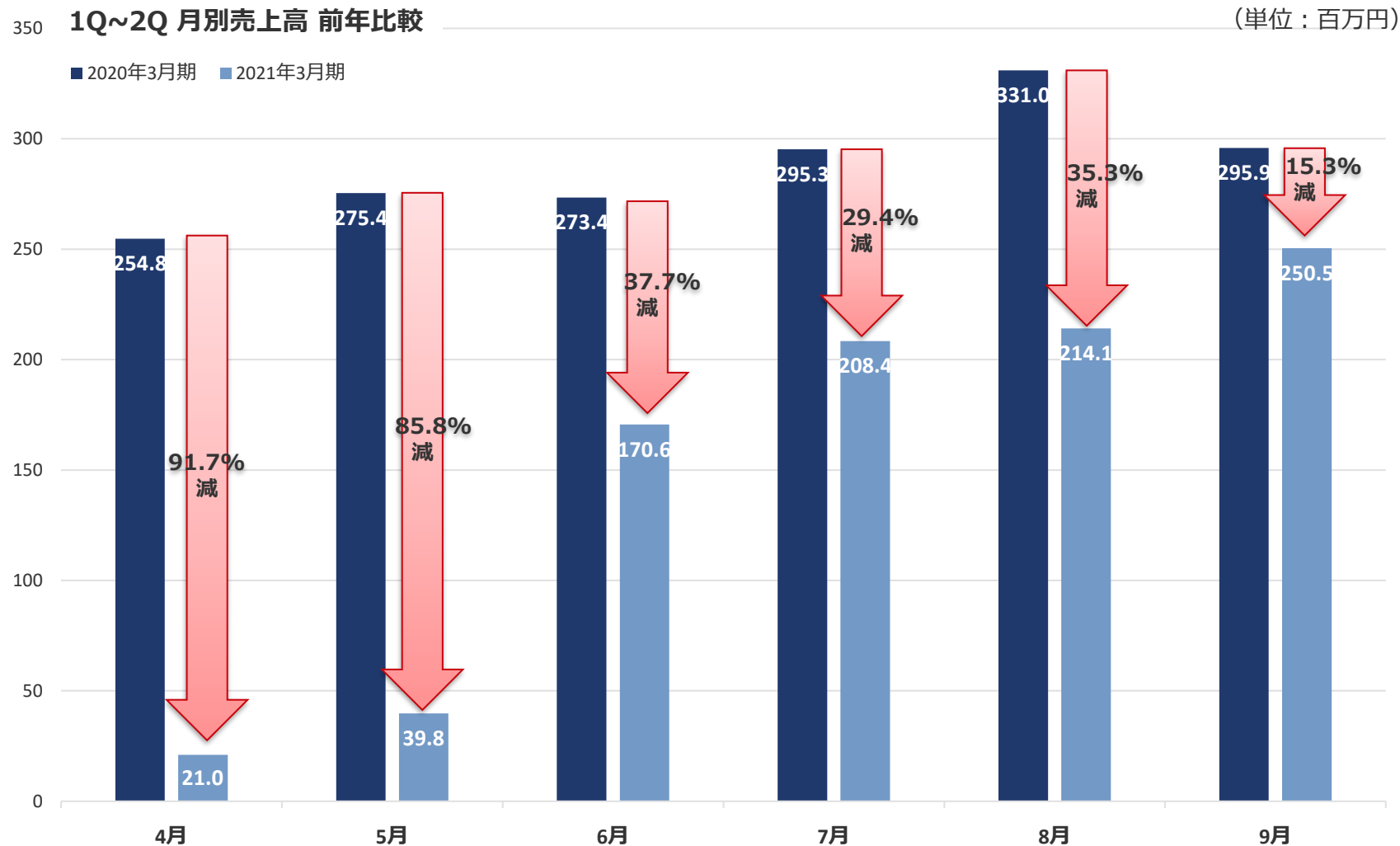
8月より、新規事業として、ご家庭で牡蠣を楽しめる「HOME OYSTER BAR」のD2C型のECサイトを立ち上げ。牡蠣の新たな楽しみ方の提案および、販売チャネルの多角化により、収益力のUPを目指す

コロナ禍の月別損益

販管費のコントロールにより、損益分岐点が下がり、9月度は前年比で損失幅を縮小できた

	7月			8月			9月		
	2019	2020		2019	2020		2019	2020	
	実績 (百万円)	実績 (百万円)	前年比 (%)	実績 (百万円)	実績 (百万円)	前年比 (%)	実績 (百万円)	実績 (百万円)	前年比 (%)
売上高	295.3	208.4	-29.4	331.0	214.1	-35.3	295.9	250.5	-15.3
売上原価	102.4	79.2	-22.6	117.4	73.0	-37.8	113.2	94.6	-16.4
売上総利益	192.8	129.2	-32.9	213.6	141.1	-33.9	182.6	155.9	-14.6
販管費	216.6	158.4	-26.8	218.4	169.4	-22.4	212.2	174.4	-17.8
営業利益	△23.7	△29.1	-	△4.7	△28.3	-	△29.6	△18.5	-

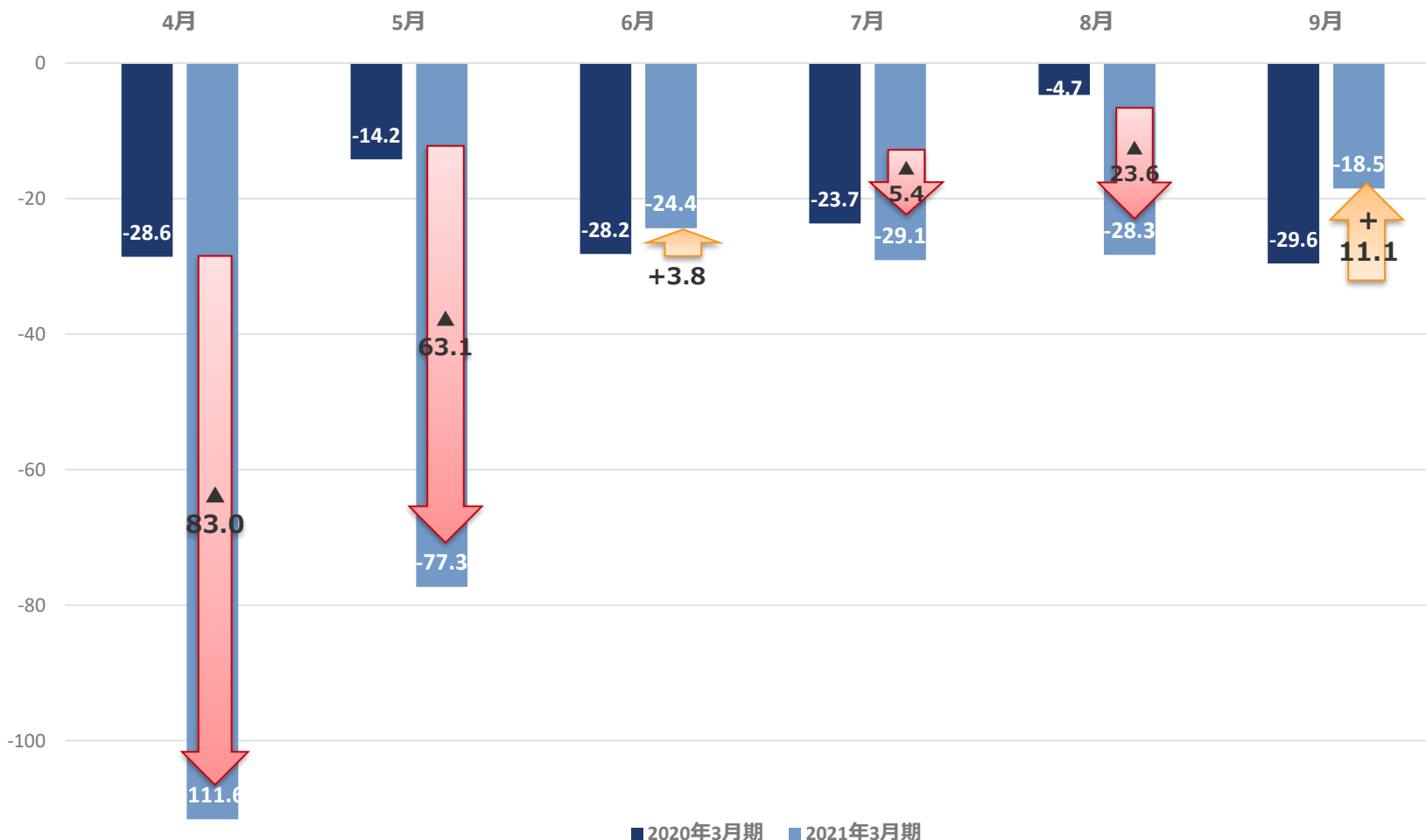
4月度をボトムに回復基調にあり、9月度は前年比84.7%（15.3%減）の水準にまで回復



6月度と9月度は機動的な稼働体制への転換などにより、前年比で損失幅の縮小に成功

1Q~2Q 月別営業利益 前年比較

(単位：百万円)



その他の取り組み内容（D2C型のECサイト開設）

8月13日より、ご家庭で牡蠣を楽しめる「HOME OYSTER BAR」のECサイト開設。
牡蠣の新たな楽しみ方の提案および、販売チャネルの多角化により、収益力のUPを目指す。



磯の風味が詰まった生牡蠣を、キリリと冷やしたワインとともに。

お次は焼き牡蠣に、牡蠣フライ。嗚呼、至福の時…。

そんなオイスターバーの味わいをお家で愉しんでみませんか。

生牡蠣は海洋深層水で浄化する(特許取得)、ゼネラルオイスターグループならではの安全品質。

お店と変わらない「生」の美味しさをご堪能いただけます。

セットのクラフトグリルを使えば、ベランダや庭、キャンプで焼き牡蠣体験も。

さあ、牡蠣を開けよう！パーティを開こう！

3. 2021年3月期 業績見通しについて



通期業績の見通しについて

現時点では通期業績の合理的な見積りが困難なため、2021年3月期の連結業績予想は引き続き「未定」とし、今後見通しが立った時点で速やかに公表させていただきます。

(百万円)	2020年3月期 通期実績	2021年3月期 連結業績予想	前年同期比 (%)
売上高	3,579	未定	-
営業利益	▲146		-
経常利益	▲157		-
当期純利益	▲106		-

・現状、売上も順調に回復してきつつあるものの、冬場を迎え、再度感染拡大の懸念もあり、その影響が不透明であることから、現時点での業績予想は「未定」とする

・コロナ禍による事業への影響がある程度見通せるタイミングにて、2021年3月期業績予想の発表を予定。



General Oyster

本資料に記載されている予測、見通し、戦略およびその他歴史的事実ではないものは、当グループが資料作成時点で入手可能な情報を基としており、その情報の正確性を保証するものではありません。これらは経済環境、経営環境の変動などにより、予想と大きく異なる可能性があります。